視覚障害者のための公園施設に関する研究

岩 田 雅 友¹⁾ 大井手 健 二²⁾
小 野 佐和子³⁾ 脇 百太郎⁴⁾

Studies on the Facilities in park for the Blind
by Masatomo IWATA Kenji OIDE
Sawako ONO Momotaro WAKI

はじめに

近年、身体障害者、老人等、身体的ハンデキャップをもった人々の公園利用への関心が高まり、設計基準なども整備されつつあるが、まだ、これらに関する基礎調査、研究は充分とはいえない。本研究は身体障害者のうち、視覚障害者（盲人）をとりあげ、盲人のための公園施設について考察を行なう。

盲人はその視覚障害に因る特有の心理、感覚、行動様式を有する。従って公園計画もこれらの特性を十分考慮してなされなければならない。盲人専用の公園として、現在種々の施設があるが、それらの現状を基に、造園計画の基礎となるバックデーターの集収を目的として、盲人へのアンケート調査を行なった。その調査から、盲人の公園に対する要求、イメージが晴眼者のそれと本質的に差異ないことが明らかになった。身体障害者は行動の様々な面で制限を受けるが、それらを配慮した計画がなされれば、屋内にこもりがちな彼らの生活圏も戸外へと拡大するであろうし、それに伴ない公園利用も増加することになろう。

1. 調査対象と調査方法

第1回調査の内容¹⁾

①宮崎県内在住の点字解説可能な障害等級²⁾ 1級、2級の視覚障害者50名

郵送による、点字での選択及び記述式アンケート

②宮崎県立宮崎盲学校高等科 1級～6級68名

点字による選択及び記述式アンケート

③神戸市立神戸盲学校、小・中・高等部の生徒とその職員 1級、2級31名

調査方法は②と同じ

第2回調査の内容³⁾

①宮崎県内在住者、1級、2級53名

各家庭を訪問し、個人面接による口頭諮問形式アンケート

②宮崎県立明星学園 7才から18才まで、1級、2級33名

3名～5名を1グループとし、個人面接的に口頭諮問形式のアンケート

③宮崎養護院 49才から81才まで、1級、2級15名
調査方法は②と同じ

④宮崎県立宮崎盲学校 7才から35才まで 1級、2級38名

印刷物による調査を盲学校に依頼

⑤神戸市立神戸盲学校 10才から19才まで 1級、2級20名

調査方法は④と同じ

⑥大阪市立大阪盲学校 9才から19才まで 1級、2級18名

調査方法は④と同じ

1) 昭和47年8月～12月

2) 身体障害者手帳等級

3) 昭和48年10月

I 第1回調査の結果

1. 感覚的嗜好

一般に盲人は人工的な音よりも水の流れる音や小鳥の声のような、より自然的な音を好むと言える。(表-1) また匂いにおいても、花の匂い、木々や葉の匂いがいづれも7割以上を占め、宮崎県内在住者では98%にものぼり、植物の匂いへの嗜好は高い。(表-2)

手の触覚は、つるつるした感じ、なめらかな感じ、やわらかい感じが好まれ、ざらざらや、でこぼこの感じは嫌がられる。(表-3)「盲児が美しいというのは一般につるつるとして手ざわりがよいものをさしています⁴⁾」という言葉を考えあわせる時、このことは、盲人の美の基準を示すものであろう。

足の感触では、たいらな感じが最も好まれる。次いでやわらかい感じ、かたい感じの順となるが、これについ

1) 伊丹市役所公園緑地課

2) 北九州市役所

3) 南九州大学

4) 南九州大学・協造園総合設計事務所

て、②-Aと②-Bの結果を比較すると、かたい感じでは②-Aが他に較べ低い比率を示し、やわらかい感じについては高い比率を示す。(表-4)このことから障害程度の重い者ほど、かたい感じを好むことが考えられる。

具体的な材質としては、やわらかい感じであると思われる芝生の比率が高い。(表-5)これは、盲人の感覚の好みは体験的要素に支配されることが多く、せまい行動圏のなかでとらえられる感覚にかたよりがちであり、施設等において芝生に接する機会が多い事が影響していると思われる。ともかく、地盤のしっかりした芝生のもつ安定感、やわらかな足ざわりが好まれることは事実であり、芝生の広場等は的を得た施設と言える。①において土の比率が高いこと、④においてコンクリートの比率が高いことも、同様に生活環境を反映したものと言えるであろう。全体として足の触覚については、たいらで、恒常的、均質な安定感のあるものが好まれることがわかる。これは、盲人は急激な外界の条件の変化に、感覚的に対応できない面があり、歩行時の安全性を憂慮して、このような結果となったものであろう。

2. 園路

盲人の歩行にとって聴覚的刺激はもっとも大切な要因であるので、園路の材質によって歩行の難易が大きく左右される。歩く道の材質としてはコンクリートが最も好まれ、次いで芝生である。(表-6)コンクリートが、好まれるのは、歩くとき、靴や杖の音を適確に知覚することに因る。芝生には、転倒しても安全であるという意識の介在が感じられる。

園路の形状としては、まっすぐな道、平らな道が好まれる。(表-7)まっすぐな道とまがった道の項目で、②-Aは他と異なった傾向を示す。これは②-Aにおいて3級以上の言わば視力のあるものの傾向があらわれていると思われ、まっすぐな道は、視覚的に単調であり、視力のある人にはたいくつであるが、全くみえない人にとっては安全性が最大の問題になるという感覚的特性を表わしていると言える。このことは1級、2級の盲人にとって階段が最も嫌われることに裏付けられる。従って、園路計画において階段を用いることは絶対に禁物であり、斜面等のやむを得ない場合でも緩やかなスロープとして処理すべきである。

3. 休憩施設

ベンチやこしかけの高さは、膝から膝と腰の真中位まで、具体的には大体40～60cmの範囲の高さが適当と考えられる。(表-8)高さと共に、奥行も利用者に大きな影響を及ぼす。というのは、盲人にとって、奥行が深いということ、つまり、深く腰かけることは、体のバランスを失いやすく、腰かける動作の時点で非常に不安である。従って、高さと同時に奥行についても十分に配慮し

た施設でなければならない。

4. 庭園に対する意識

自分の家や、ホーム、学校の庭についての調査結果は表-9にみるとおりである。「ある」「ない」の項目に対し、①では自宅の庭、他は学校と自宅の庭両方に対して回答がなされている。これらの結果をみると、盲人の意向を充分取り入れた計画ならば、その利用は80%以上の人々に期待し得る。また庭を持ちたい欲求は殆どの人々が持っていると言える。

II 第2回調査の結果

1. 戸外活動

1-1 戸外活動への指向性

表-11において7割の者が外に出て遊んだり、運動したりすることを好むという結果がでている。養護院において他と比率が異なるのは施設からの外出が禁じられている事と、年長者が多く体力的に外出が無理であるからであろう。外出を好まない3割の人々の理由は、「車が往来するので危険」が一番多く、次に「遊び相手がいない」と言うことであった。二番目の回答については、盲学校はほとんど寄宿制であり、休校期の状態を指すものと思われる。これらを考慮しても盲人の戸外活動への指向性は高いと言える。

1-2 戸外活動の場

戸外活動の場は表-12に示す。学生、就業者、老人ホーム内の老人など、生活に応じてその行動圏のパターンは様々であるが、活動の場としては主として学校の運動場、公園、施設の庭、家の庭である。川原、海岸、山等自然的環境での活動は、神戸、大阪に較べ、宮崎のほうがおおむね多いと言える。それに対し、公園の利用は、大阪神戸において多い。行動する世界が限られ、個人的に外に出ることがあまりなく、外に出る場合も付き添いと一緒という盲人にとって、手近にあることが利用の最大の要因であり、公園配置、その立地が利用に大きく影響することを示すものであろう。大阪では、盲人公園の学校単位での利用があり、それがパーセントに反映しているものと思われる。

1-3 戸外での遊びの種類

戸外での遊びの種類は表-13に示す。20才以下では、男性の場合、野球が一番であり、ボールを使用する遊びが好まれ、以外に活動的な遊びが上位にあがっている。遊具を使用するものとしては、ブランコが人気が良い。女性の場合、なわとび、おいかげごっこが好まれ、遊具を使用するものとしては、やはりブランコが一番である。男女を通じて、ブランコの人気は圧倒的である。

20才以上では、殆どがアンマ、ハリ、マッサージ、指圧などの就業者であり、「運動といっても、それ程はげ

しい運動はしない」という回答が多く、表の様なもの
があげられている。(表-14)

外で運動する場合、「運動できる場所がない」とい
う事が最大の問題となっている。

2. 公園の利用

2-1 公園の利用率

表-15で見るかぎり、明星学園を除いて公園利用率は
高い。明星学園では「帰省すると付近に公園が少い」
「家から外に出ることがない」という人が多く、低い利
用率となっている。

2-2 利用回数

公園の利用回数は表-16で示される。利用パターンは
「ほとんど利用しない」と「よく利用する」に別れる。
これらはいずれも公園の利用率が公園の立地に左右され
ることを示し、付近に公園がありさえすれば利用が期待
できることを示すものであろう。

2-3 一回の利用人数

一回の利用は一人よりも複数でなされることが多い。
神戸、大阪では2～6人での利用が比較的多く、宮崎に
おいて7人以上での利用が多いことは、公園の普及率と
の関係が暗示されていると思われる。(表-17)

2-4 利用後の感想

以上のように利用の比率は高いのであるが、利用した
結果は半数以上の人がおもしろくなかったと答えてい
る。(表-18)

おもしろかった理由は

1. 遊び道具が沢山ある
2. 色々なつくり物の動物があり、それに乗れる
3. 空気がよい
4. 芝生があって寝ころんだりできる
5. ハトが放し飼いにしてある
6. 花がいっぱいある

おもしろくなかった理由は

1. 遊び道具が少い
2. 遊器具が単純で、すぐに飽きる
3. 盲人が使える遊器具がない
4. のんびりする為に行くのに、騒がしすぎる
5. 一人なので、なにもできない(友人がいない)
6. ベンチが多くて遊べない
7. 地面がデコボコしていたり、ステップがついてい
たりする
8. 構造物に当たる
9. 障害物があって歩きにくい
10. 木の枝が歩道に突き出して危い
11. 犬や大人が多くて遊べない
12. ボールが飛んできたり、自転車走ったりして危
険

13. 便所、水飲などのある所がわからない

以上は、盲人が使用できるおもしろい遊具の開発、休
養的利用への配慮、施設の配置及び安全性、各施設位置
の明示方法等の問題を含み、一人でも利用できるような
公園を望む、彼らが、現状に対する再検討を指摘したも
のであり、これに充分応える配慮がなされなければならない。

2-5 芝生広場でやりたい

こと芝生広場でやりたいことは様々である。回答の多
いものから順に以下に記す。

1. 球技(野球) 2. かけっこ 3. レスリング 4. 寝
ころぶ 5. 散歩 6. お話 7. すもう 8. フォークダ
ンス 9. パレー 10. チャンバラごっこ 11. 鉄棒
12. ころがる 13. あばれる 14. ままごと 15. 日向
ぼっこ

回答された種々の遊びは、芝生広場への期待性を示し
ひいては芝生を媒体としての彼らの大地への憧憬を秘め
たものと言えよう。

3. 施設

3-1 遊戯施設

表-19は公園において適当だと思う遊具を示したもの
である。20才以上の人には子供の頃を考え安全性を考え
て選んでもらった。ブランコの比率が高いのが注目され
る。表に示された以外にほしい遊具としては、

1. 汽車の模型、2. 回転ブランコ、3. 迷路、4. 人形
5. 登はん木、6. 豆自動、7. 遊動円木、8. 自動車、
9. 大きなドラム缶(遊園地にある様な人間が中に入っ
て回すもの)、10. 踏むと音の出るもの、11. 変形ジャ
ングルジム、12. 砂場、13. 安全ブランコ

以上のものは、公園遊具として充分利用可能であり、
汽車型ブレイスカルプチュア、迷路型ブレイウォール、
人間型ブレイスカルプチュア、ドラム缶型リングリング
音の出るリズムステップなどいろいろ考えられる。た
だ、これらは現在の遊具そのままがよいということでは
なく、それぞれの遊具に対する興味の要素を分析検討し
たうえで、新しい遊具の開発が考えられるべきであろう。

公園でまず最初に遊びたい遊具は表-20に示されるよ
うになる。ここでもブランコの比率が特に高い。ブラン
コはすわったままで空間の変化を感じられることが興味
をひくのではないだろうか。空間的の知覚について、横
の広がりだけでなく、高いすべり台のように、高さの広
がりを感じられたらすばらしいという意見もあった。ジ
ャングルジムは、手でパイプをつたいながら遊ぶおもしろ
さであろう。盲人のための施設は、残された感覚をフル
に活用できるものとして考案されなければならない。

3-2 休憩施設、その他

最も興味のある、遊具以外の施設としては、「噴水池」

と「音楽の聞こえるベンチ」の比率が高い。(表-12) 音のする物へまず最初に注意が向くということは、音の占める重要性を表わすものであろうし、音が目印、空間知覚のよりどころとなることを示すものであろう。音の効果的な使われ方が、もっと考えられてよい。水の音は感覚的嗜好においても好まれる音であった。道案内をかねて、園路の横につくられた流れ、手でふれることのできるせせらぎ、滝など取り入れられてよい。

3-3 音楽

奈良壺坂寺の「にのいの花園」、福井の「光道園」には、腰を掛けると音楽の聞こえるベンチがあるが、これらから公園内で音楽を流す場合、どのような種類が好まれるかを調べたのが表-22である。全体として歌謡曲が最も好まれ、次にオルゴール、軽音楽となるが、音楽の好みは年令的、地域的な差があるようである。なお、鈴、チャイムは、時間を知らせる時に使ったらよいという意見が多く、また自然の音を流して欲しいという意見もかなり多い。「自然の音」は、本来の自然の音を効果的に使う方向で考えられるべきであろう。

3-4 誘導施設

現在の盲人公園には、手すりが誘導施設として使用されている。盲人にとって手すりが必要かどうかを調べたものが表-23である。これで見ると、6割強のものが必要なしと答えている。ただしこの質問では、階段や急な曲り角などの危険な場所には手すりを取り付けることを前提としている。手すりが不用な理由は、次の様なものである。

- ・自由に行動できない
- ・広々とした感じがしない
- ・ぶつかって倒れると危い
- ・花壇の花や植木に触れる事ができない

ただし手すりの必要性を認める人が3割以上あり、公園におけるより適当な誘導施設の開発が望まれる。尚、必要であると回答した理由は次の様である。

- ・安全である
- ・目的の所に行きやすい
- ・歩きやすい

3-5 園路

調査の結果をみると、園路の幅は「1.5～2 m」「2.5～3 m」が他より多く、これらから1.5～3 mが道幅として妥当であると言える(表-24)ただ、これは対向者のことを考え、衝突をさけるための意味もあり、一方通行の場合、もっと狭いほうが歩いている道の中での自分の位置確認が容易であり、方向も把握しやすい。これを裏付けるものとして、できるだけ狭いほうが(30cmくらい)歩きやすいという意見もあった。

階段をつくる場合、適当なステップの高さは10～20cm

が最も多く、普通の階段と同じ位である。(表-25)盲人にとって、階段は、蹴上りの高さの高低より、そのパターンが問題であり「一番昇り降りしにくい階段とは、奥ゆきの一定していない階段である」という答が示すように、蹴上り、奥ゆきの不規則な階段では、その認知は非常に困難であり、その歩行には多大な労苦を伴なう。階段はできるだけ避けるべきであるが、やむを得ない場合はパターンの一定した階段にすべきであろう。これについては今後、歩幅など歩行についての綿密な調査を要する。

3-6 体育器具

「盲児は遊ぶ率が少なく、とくに高学年になるほど少なくなっている。屋内と屋外の遊びにおけると、屋外がその率も時間も非常に少なくなり、とくに中学年以上の盲女子はほとんど屋外で遊んでいない¹²⁾」つまり「彼らは戸外への行動が少なく、運動不足になりがちであり日光浴不足になりがちなのである¹³⁾」その結果として、身体の発育が普通児より劣り、また姿勢、足形、扁平足など身体的部位における異常性も認められる。盲児のための遊具施設として運動を誘発し、リハビリテーション的な機能をも兼ね備えた遊具が考えられてよいであろう。以下は公園に導入可能な体育器具を知る為に調べたものである。「学校での体育の時間は、何をした時がおもしろかったか」という問いに対し、次のような回答がなされた。

1. サッカー、2. トランポリン、3. マット、4. 剣道、5. 雲梯、6. 鉄棒、7. バスケット、8. 飛び箱、9. 陸上競技、10. ドッチボール、11. 器械体操、12. 幅飛び、13. ハンドボール、14. 野球、15. 平均台、16. のぼり綱、17. ボールころがし、これらの内、トランポリン、マット、雲梯、鉄棒、飛び箱、平均台、のぼり綱等は遊具として公園にも応用できるものであり、これらのもつ要素を取り入れた新しい遊具の開発を期待する。

4. 植物への興味

植物の名前を知りたい人が6割、木や花に触れてみたい人は5割強である。(表-26、27)樹木を触察する興味は、日頃そうした機会が少ないが故に、正常者が珍しい木や花に対して抱くような興味ではなく、実際に自分の手足、肌で植物とは、樹木とはどんなものかを把握したいという原点に立ったものが多数を占めることに留意しなければならない。量、質ともに、正常者に比して、植物への興味は強いと言える。

おわりに

現在、身体障害者対策として、各分野において、体の不自由な人々に対する福祉施策が充実しつつある。しかしながら、結果的に、不評に終った例が意外に多い。こ

れは一重にその施策における基礎調査、分析が不十分であり、本質的な配慮が欠けたことに起因している。

こうした実例が示すように、計画において基礎調査は不可欠のものである。造園においても、盲人を含め身障者全般についての基礎研究が大成され、計画に必要な基礎データが整備されることが急務である。今後、これらに関する数多くの研究が行なわれ、1日も早く、身障者の人々も満足でき、健常者と共に、同様に利用しうるような公園が誕生し、太陽の下で、大自然の恩恵を十分に受けられる日が来ることを期待するものである。

表－1 好まれる音

(%)

	①	②-A*	②-B*	③
テレビ・ラジオの音	18.0	7.3	9.6	13.8
木の枝や葉のそよぐ音	34.0	14.6	15.1	20.7
雨のふる音	0	14.6	16.4	5.2
水の流れる音	20.0	30.1	26.0	25.8
小鳥の鳴声	28.0	31.8	32.9	31.1
その他	0	1.6	0	3.4

(※②-A：1級～6級の回答結果)
(※②-B：1級・2級だけの回答結果)

表－2 好まれる匂い

(%)

	①	②-A	②-B	③
花の匂い	80.0	53.5	56.9	47.6
木や葉の匂い	18.0	24.2	27.4	23.8
料理・食物の匂い	2.0	15.2	9.8	21.4
その他	0	7.1	5.9	7.2

表－3 手の触覚

(%)

	①	②-A	②-B	③
つるつるした感じ	41.2	15.3	20.4	31.8
ざらざらした感じ	2.0	3.1	3.7	2.3
なめらかな感じ	31.4	46.9	44.4	43.2
でこぼこの感じ	3.9	5.1	5.6	0
やわらかい感じ	17.6	29.6	25.9	22.7
その他	3.9	0	0	0

本研究において、アンケート調査に御協力いただいた各盲学校、日本ライトハウス宮崎県盲人福祉館、その他多数の方々の御指導と援助に対し、深く感謝の意を表する。

引用文献

- (1) 福来四郎「見たことないもん作られへん」P. 113, 講談社 1969.
- (2) 田中農夫男・原政美「視覚欠陥児」P. 92, 明治図書 1969.
- (3) 同上 P. 101.

表－4 足の触覚

(%)

	①	②-A	②-B	③
かたい感じ	16.3	8.9	14.6	17.9
やわらかい感じ	20.4	32.1	26.8	20.5
たいらな感じ	55.1	47.5	46.4	41.0
でこぼこな感じ	4.1	6.4	7.3	10.3
その他	4.1	5.1	4.9	10.3

表－5 足の触覚(材質)

(%)

	①	②-A	②-B	③
土	33.3	13.5	10.4	12.5
砂	9.1	10.1	10.4	10.0
砂利	9.1	14.6	16.7	7.5
コンクリート	0	7.9	8.3	22.5
芝生	48.5	53.9	54.2	47.5

表－6 歩きやすい園路(材質)

(%)

	①	②-A	②-B	③
土	22.9	10.4	7.1	7.0
砂	2.1	2.6	0	2.3
砂利	10.4	10.4	14.3	14.0
コンクリート	43.8	40.2	47.6	55.8
芝生	20.8	36.4	31.0	20.9

表-7 歩きやすい園路（形状）（％）

	①	②-A	②-B	③
まっすぐな道	44.2	25.6	35.8	53.9
曲った道	11.6	26.7	20.8	2.6
坂道	14.0	18.8	17.0	10.2
平らな道	30.2	27.8	26.4	33.3
階段	0	1.1	0	0

表-9 自分の家やホームや学校の庭について（％）

	①	②-A	②-B	③
あ	61.5	91.1	88.0	65.4
な	38.5	8.9	12.0	34.6
利	100	86.5	88.0	60.0
用				
す				
る				
利	0	13.5	12.0	40.0
用				
し				
な				
い				
欲	100	100	100	100
し				
く				
な	0	0	0	0
い				

表-10 庭を造る時考えて欲しいもの(回答者数) (人)

	①	②	③
匂いのする花や木	13	4	3
池	6	13	0
噴水	3	16	0
芝生 ¹⁾	6	6	2
休憩施設 ²⁾	4	5	2
触察施設 ³⁾	6	1	3
木陰	4	4	1
小鳥	5	1	1
花壇	3	3	1
流れ	3	1	2
実のなる木	1	4	1
自然風な庭	3	3	0

- 1) 芝生の広場、築山、園路を含む
2) ベンチ、パーゴラ等休憩の為の施設
3) 点字の説明文、接触案内板等の触察の為の標識や音響指標
(オルゴール、チャイム、鈴その他)等の誘導施設

表-8 ベンチやこしかけの高さ（％）

	①	②-A	②-B	③
ひざ位の高さ	46.8	60.6	62.1	42.8
ひざと腰のまん中位の高さ	40.4	33.4	32.5	34.3
腰ぐらいの高さ	10.6	4.5	5.4	20.2
その他	2.1	1.5	0	2.9

表-11 家の外に出て選んだり運動したりするのは好きですか（％）

	①	②	③	④	⑤	⑥
はい	64	40	78	85	73	88
いいえ	36	60	22	15	27	12

表-12 家の外で遊んだり運動したりする時どんな所を選びますか（％）

	①	②	③	④	⑤	⑥
学校の運動場	19	0	14	30	42	61
家の庭	39	8	23	25	29	16
公園	3	0	42	35	21	61
広場	9	0	6	25	32	16
施設の庭	90	96	0	0	0	0
道	0	18	14	20	8	22
川原・海岸	12	0	8	0	12	0
山・丘	18	24	15	5	5	0
家の屋上	0	0	0	18	0	0
その他	9	0	16	5	8	13
不明	6	4	0	15	10	16

表-15 公園を遊びや運動に利用することがありますか（％）

	①	②	③	④	⑤	⑥
はい	57	80	100	90	76	94
いいえ	43	20	0	10	24	6

表-13 家の外で遊びや運動をする時、どんな事をしますか (20歳以下)

	男 性	女 性
遊び 遊具を使わない	野球、ボール遊び(サッカー)、ボール投げ、陣取り、かけっこ、チャンバラごっこ、なわとび、バトミントン、かくれんぼ、缶跳り、魚釣り、ビーチボール投げ、すもう、小鳥の世話	なわとび、おいかけごっこ、バレー、かくれんぼ、陣取り、お話し、バトミントン、缶跳り、ゴム飛び、散歩、ハンカチ落とし、缶げた、ケンケン
遊ぶ 遊具を使う	ブランコ、木のぼり、雲梯、スベリ台、鉄棒、四輪車、ジャングルジム、登はん木、砂場	ブランコ、鉄棒、スベリ台、ジャングルグロープ、砂場、雲梯、シーソー、ジャングルジム、木のぼり
不明	4 名	2 名

表-14 家の外で遊びや運動をする時、どんな事をしますか (20歳以上)

家の中で行なう運動	エキスパンダー、体育道具による運動、簡単な運動(柔軟体操)
外で行なう運動	散歩、階段の昇降、鉄棒、雲梯、体操、山登り、かけ足、ラジオ体操、手を引いてもらい足の運動、跳躍

表-16 公園を今まで何回ぐらい利用したことがありますか (%)

	①	②	③	④	⑤	⑥
少し利用した(1~3回)	26	40	13	16	27	23
数回利用した(4~10回)	0	40	11	12	11	7
何回も利用した(11回以上)	74	20	76	72	62	70

表-17 公園の一回の利用人数 (%)

	①	②	③	④	⑤	⑥
1 人	11	18	18	27	20	7
2 ~ 6 人	37	7	35	44	20	41
7 人 以 上	37	15	40	7	37	29
不 明	15	60	7	22	23	23

表-18 公園を利用しておもしろかったですか(%)

	①	②	③	④	⑤	⑥
は い	27	32	40	39	38	24
い い え	73	68	60	61	62	76

表-19 公園の遊具として、次の中ではどれが適当だと思いますか (%)

	①	②	③	④	⑤	⑥
ブ ラ ン コ	42	40	62	75	63	68
シ ー ソ ー	0	36	30	44	22	28
ス ベ リ 台	20	15	40	27	32	28
ジャングルグロープ	25	0	26	33	32	42
パイプツリー	28	0	14	33	38	36
鉄 棒	25	48	48	22	22	18
プレーウォール	20	28	45	27	25	32
リズムステップ	0	8	24	22	15	22
プレイスカルプチュア	20	0	8	27	32	23

表-20 公園でまず最初に行く所(遊具) (%)

	①	②	③	④	⑤	⑥
ブ ラ ン コ	42	—	—	56	54	52
シ ー ソ ー	15	—	—	15	17	18
ス ベ リ 台	22	—	—	22	25	32
鉄 棒	31	—	—	33	27	25
平 均 台	11	—	—	11	8	15
ジャングルジム	31	—	—	33	36	34
リズムステップ	27	—	—	27	20	23
プレーウォール	22	—	—	22	28	29
プレイスカルプチュア	15	—	—	15	22	21

表-21 公園でまず最初に行く所
(遊具以外の施設) (%)

	①	②	③	④	⑤	⑥
休憩所	5	—	—	22	8	15
音楽の聞えるベンチ	32	—	—	50	46	38
噴水池	36	—	—	72	78	58
花壇	10	—	—	15	18	28
樹木園	21	—	—	22	30	27

表-22 公園内で好まれる音楽 (%)

	①	②	③	④	⑤	⑥
鈴・チャイム	6	25	20	15	12	8
オルゴール	33	43	42	35	43	36
軽音楽	17	0	24	40	30	48
歌謡曲	40	68	48	45	52	41

表-23 手すり (%)

	①	②	③	④	⑤	⑥
あった方がよい	15	32	24	34	24	27
ない方がよい	73	62	64	66	70	73
どちらでもよい	12	6	12	0	6	0

表-24 公園内の歩度の最適な幅 (%)

	①	②	③	④	⑤	⑥
1 M 未満	6	8	12	10	10	16
1.5 ~ 2 M	22	28	22	20	22	22
2.5 ~ 3 M	36	24	32	20	24	28
3.5 ~ 4 M	22	24	5	10	18	11
4.5 M 以上	8	8	5	10	10	7
どれくらいでもよい	6	8	24	30	16	16

表-25 適当なステップの高さ (%)

	①	②	③	④	⑤	⑥
10cm 以下	4	10	14	10	14	22
10 ~ 20cm	78	62	46	40	55	44
20 ~ 30cm	18	28	40	45	26	28
30cm 以上	0	0	0	5	5	6

表-26 植物の名前を知りたいですか (%)

	①	②	③	④	⑤	⑥
はい	60	45	74	60	57	68
いいえ	40	55	26	40	43	32

表-27 木や花に触れてみたいと思いませんか (%)

	①	②	③	④	⑤	⑥
はい	62	52	64	55	64	52
いいえ	38	48	36	45	36	48

Summary

The most interesting facilities for the blind are swings fountains and benches which give them comfortable sounds. The desirable path for them in park is concrete or lawn in material, plain and straight in form, 1.5~3m in width, by only one side, 50cm wide. One step is 15~20cm high, the switablen bench is 40~60cm high. The handrail for leading is not good for 60% of them.

Utilization ratio on park is high but more than half of them did not feel interesting after play. Problems which are expected to be solved by planners are invention of more delightful and sefty facilities for play, method of indication of place, and disposition of facilities.